

Made for



iPod



iPhone

デスクトップオーディオシステム

TSX-140

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
- 保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という禁止を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がる。
 - 異常に高温になる。
 - 内部に水や異物が混入した。● 煙が出る。
- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステーパーで止めない。● 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
 - 加湿器を過度にきかせた部屋
 - 雨や雪、水がかかるところ
- 水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には:

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。(本機の周囲に左右10cm、上15cm、背面10cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意



必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。

接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。



禁止

CD挿入口や、放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

手入れ



必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード



必ず実行

本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。

本体の電源ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。



必ず実行

付属のACアダプターを使用する。

それ以外のものを使用すると火災の原因となることがあります。



禁止

ACアダプターは、布や布団でおおったり、つつんだりしない。

熱がこもり、ケースが変型し、火災の原因となることがあります。

電池



必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス-)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

指定以外の電池は使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

必ず実行

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

必ず実行

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。



必ず実行

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。



プラグを抜く

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意



必ず実行

再生の前には、音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。



禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



注意

ブラウン管を使用したディスプレイから離して設置する。

色むらが起きることがあります。



必ず実行

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。



禁止

CD挿入口には手を入れない。

本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因になります。



禁止

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクを使用しない。

ディスクは、機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因になります。



禁止

レーザー光源をのぞき込まない。

レーザー光が目当たると、視覚障害の原因になります。



禁止

大きな音で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

手入れ



必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。



禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。
柔らかい布で乾拭きするか、汚れがひどいときは、水を布に含ませ、よくしぼって拭き取ってください。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

目次

各部名称とその機能.....	2	シャッフル・リピート再生をする.....	12
時計を合わせる.....	5	スリープ機能を使う.....	12
iPodの音楽を聴く.....	6	音質を調整する.....	12
CD、USB機器の音楽を聴く.....	7	故障かな?と思ったら.....	13
ラジオを聴く.....	8	ディスクおよびUSB機器について.....	16
外部機器の音楽を聴く.....	8	主な仕様.....	17
アラーム機能を使う.....	9		

▶ 本機でできること

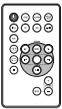
- iPod/iPhone、CD、USB機器とAUXを使った外部機器の再生と、ラジオの受信ができます。
- iPod/iPhoneを本機に接続したままで、PC上のiTunesと同期できます(iPod⇄iTunes同期機能)。
- アラーム音として、音楽、ピープ音、またはその両方を設定できます。アラーム設定時刻になると、好みの音量で設定した音楽が流れ、快適な目覚めを提供します。(IntelliAlarm機能)
- お好みのラジオ放送局をFM/AMそれぞれ5局までかんたんに登録/呼出できます。
- 低音、中音、高音をお好みの音質に調整できます。

▶ 本書について

- 本文中のiPodという表記はiPhoneも含まれます。
- 本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、本体での操作を中心に記載しています。

▶ 付属品

リモコン



(CR2025型
ボタン電池使用)

AC アダプター

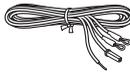


(DC 15 V、2.56 A以上
モデルナンバー:
EADP-38EB Aまたは
NU40-2150266-13)

電源コード



FM簡易 アンテナ



AMループ アンテナ



Dock カバー



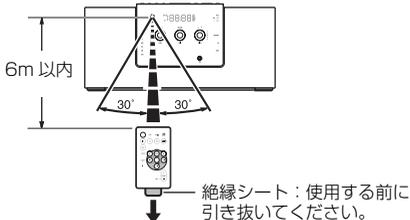
USB キャップ



ご注意

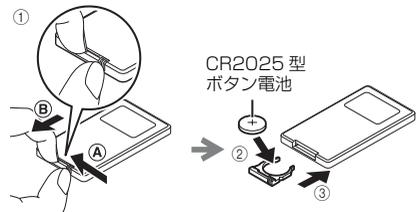
- お子様
がUSBキャ
ップを飲み
込まないよ
う、お子様
の手の届か
ないところに
保管してく
ださい。

▶ リモコンを使用する



▶ リモコンの電池を交換する

- ① Aの方向にツマミを押しこみながら、電池ケースをBの方向に引き出してください。



各部名称とその機能

▶ 上面の機能

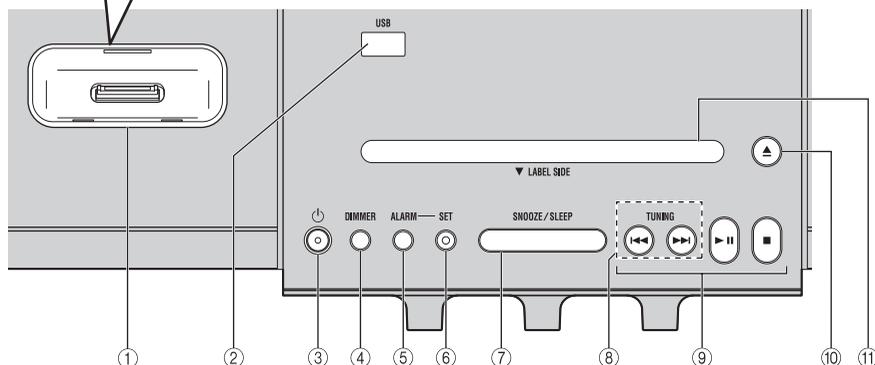
iPod を iPod Dock^{ドック} に接続する。

☀️

iPod Dock^{ドック} に接続すると充電されます。省電力モード時には、充電されません。

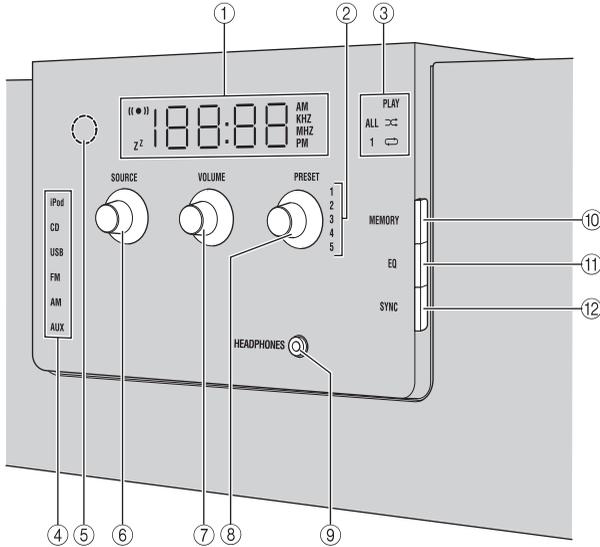
ご注意

- お使いの iPod に対応している Dock アダプター^{ドック}を必ずご使用ください。アダプターを装着しない、またはアダプターが適合していない場合、ぐらつきや接触不良によりコネクタが破損する恐れがあります。
- iPod に保護ケースを付けたまま無理に接続すると、コネクタが破損する恐れがありますので、保護ケースを外して接続してください。
- iPod を使用しない時は、コネクタを保護するために Dock カバーをかぶせてください。



- ① **iPod Dock^{ドック}** : iPod を接続します。
 - ② **USB ポート** : USB 機器を接続します。
(☞ P. 7)
- ご注意**
- USB 機器を使用しないときは、コネクタを保護するために USB キャップをかぶせてください。
- ③ **☰** : システムオン / オフ切替
システムオフ時にも時刻は表示されます。
- ☀️
- 本体の **☰** ボタンを 3 秒以上押し続けると、システムが省電力モードに切り替わります。省電力モード時には、前面ディスプレイの表示が消え、電力の消費を抑えることができます。省電力モードを解除するには、本体の **☰** ボタンを押します。
 - システムオフおよび省電力モード時でもアラーム機能は動作します。
- ④ **DIMMER^{ディマー}** : 前面ディスプレイの明るさを調整できます。
A (オート) → 3 (明るい) → 2 → 1 (暗い) → A へ戻る
- ☀️
- A (オート) に設定した場合、自動的に室内の明るさに適した明るさに調整します。
- ⑤ **ALARM^{アラーム}** : アラーム機能オン / オフ切替
(☞ P. 11)
 - ⑥ **SET^{セット}** : アラーム設定 (☞ P. 9)
 - ⑦ **SNOOZE/SLEEP^{スヌーズ スリープ}** (☞ P. 11)
 - ⑧ **TUNING^{チューニング}** (☞ P. 8)
 - ⑨ **オーディオ操作ボタン** : 曲のスキップ、早戻し / 早送り、再生 / 一時停止、停止
 - ⑩ **▲** : CD 取り出し
 - ⑪ **CD 挿入口** (☞ P. 7)

▶ 前面の機能

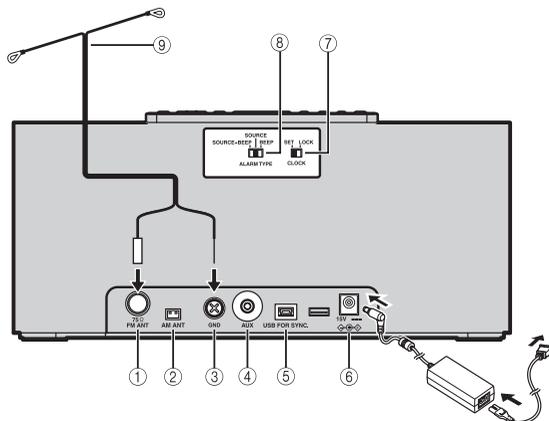


- ① **前面ディスプレイ**：時計やさまざまな情報を表示します。
- ② **プリセットインジケータ**：放送局のプリセット番号を表示します。(※ P. 8)
- ③ **プレイ、シャッフル、リピートインジケータ**：再生状態を表示します。(※ P. 9、12)
- ④ **ソースインジケータ**：選択中のソースを表示します。
- ⑤ **照度センサー**：周囲の明るさを感知します。センサーが隠れないようにしてください。
- ⑥ **SOURCE**：ソース切替
- ⑦ **VOLUME**：音量調整
- ⑧ **PRESET**
(データ CD、USB 機器再生時)：フォルダ切替
(ラジオ聴取時)：プリセット選択 (※ P. 8)
- ⑨ **HEADPHONES**：ヘッドフォンを接続します。
- ⑩ **MEMORY**：放送局のプリセット番号を登録します。(※ P. 8)
- ⑪ **EQ**：音質調整 (※ P. 12)
- ⑫ **SYNC**：iPod ⇄ iTunes 同期機能オン / オフ切替 (※ P. 6)

▶ 背面の機能（アンテナ接続）

ご注意

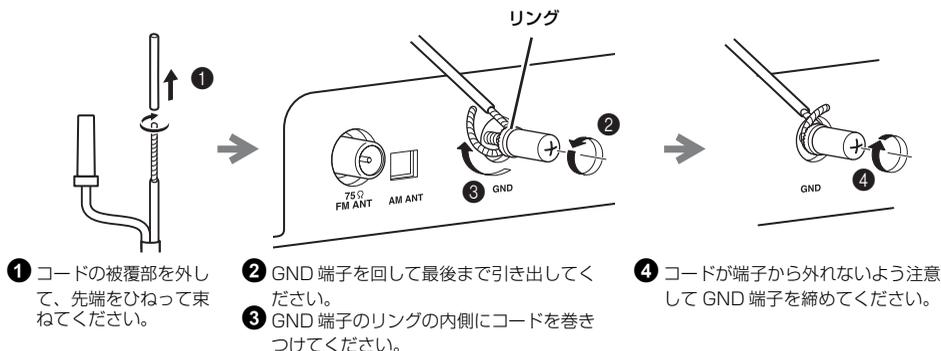
- アンテナはしっかりと張ってください。
- 付属のアンテナの代わりに屋外アンテナを使用すると受信状態が良くなります。
- 受信状態が悪い場合は、アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。



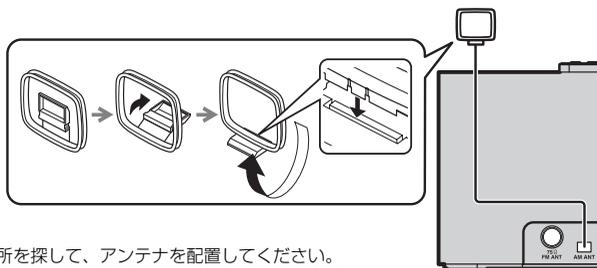
- ① FM アンテナ端子：付属のFM簡易アンテナを接続します。
- ② AM アンテナ端子：付属のAMループアンテナを接続します。
- ③ GND：FM簡易アンテナのGND線を接続します（下図参照）。
- ④ AUX：外部機器を接続します。（※ P. 8）
- ⑤ USB FOR SYNC：PCと接続します。（※ P. 6）
- ⑥ 15V ：ACアダプターを接続します。
- ⑦ CLOCK：時計を設定します。（※ P. 5）
- ⑧ ALARM TYPE：アラームタイプを設定します。（※ P. 9）
- ⑨ FM簡易アンテナ（付属品）

FM簡易アンテナのGND線の接続

GND線の接続を終えたあとにFMアンテナ端子を接続することをおすすめします。



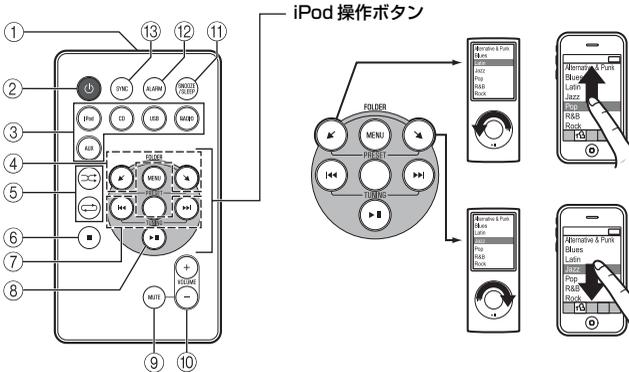
AMループアンテナの組立



ご注意

- 受信状況の良い場所を探して、アンテナを配置してください。
- アンテナの近くにデジタル機器等があると影響を受ける場合があります。

▶ リモコン



- ① 赤外線信号送信部
- ② : システムオン / オフ
- ③ : ソース切替。ラジオ聴取時に、
ラジオ
RADIO で FM/AM を切り替えます。
フォルダ
- ④ : FOLDER (データ CD、USB 機器再生時):
フォルダ切替
プリセット
PRESET (ラジオ聴取時): プリセット選択
(P. 8)
- ⑤ (シャッフル)、 (リピート): (P. 12)
- ⑥ : 再生停止
- ⑦ 、 (曲の再生中): 曲のスキップ、早戻し / 早送り
- TUNING (ラジオ聴取時): ラジオのチューニングをします。(P. 8)
- ⑧ : 再生 / 一時停止
- ⑨ : MUTE : 消音 / 消音の解除
ミュート
- ⑩ : VOLUME : 音量調整
ボリューム
- ⑪ : SNOOZE/SLEEP : スヌーズ / スリープ設定
(P. 12)
- ⑫ : ALARM : アラームオン / オフ切替 (P. 11)
- ⑬ : SYNC : iPod ⇄ iTunes 同期機能オン / オフ切替 (P. 6)

時計を合わせる

1



背面

2



前面

3



- 1 **CLOCK** を SET にする。
- 2 時刻を合わせる。
プリセット
PRESET で時刻を合わせます。
- 3 **CLOCK** を LOCK に合わせ終了する。
ロック
LOCK に合わせた時点を 00 秒として、
時計が設定されます。



- ステップ 2 で iPod を iPod dock に接続すると、iPod の時刻が本機にコピーされます。あらかじめ iPod が接続されていた場合、時刻はコピーされません。
- ステップ 2 で **SNOOZE/SLEEP** を押すと、時間表示 (12 時間 / 24 時間) を選択できます。

ご注意

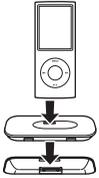
電源コードをコンセントから抜くなどして、電力が 1 週間以上供給されないと、時計の設定はリセットされます。

iPod の音楽を聴く

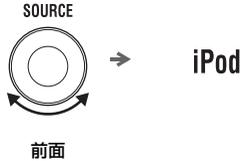
iPod を聴く

対応 iPod については、「主な仕様」(P. 17) を参照してください。

1



2



1 iPod を iPod Dock に接続する。

2 SOURCE を iPod にする。

3 iPod を再生する。

リモコン、iPod、本機のいずれからでも再生できます。



- iPod はいつでも取り外せます。
- 本機がシステムオフ時でも、iPod のミュージック / ビデオを再生することで本機は自動的にシステムオンし、iPod を再生します。

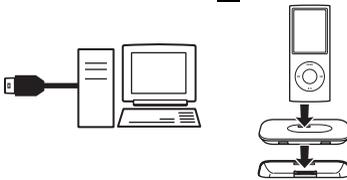
iTunes と同期させる (iPod ⇄ iTunes 同期機能)

お使いの iPod を本機に接続したまま、PC 上の iTunes と同期させることができます。

1



2



1 本機とPCを市販のUSB2.0ケーブル(A-ミニBタイプ)で接続する。

ご注意

2m 以下の USB2.0 ケーブルをご使用ください。

2 iPod を iPod Dock に接続する。

3 システムをオンにする。

SYNC の横にある SYNC インジケータが点灯します。

4 SYNC を長押しする。

SYNC インジケータが点滅したら、iTunes から iPod の同期を行ってください。同期については、iPod の説明書を参照してください。

5 iTunes 上で iPod を「取り出し」し

たあとに SYNC を長押しして、iPod ⇄ iTunes 同期機能を終了する。

3



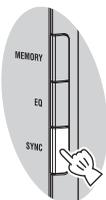
iPod の同期中に、iPod 以外のソースの音楽を再生することができます。

ご注意

- iPod ⇄ iTunes 同期機能を使用しているときは、システムオフにすることはできません。
- iPod の同期中は、iPod、USB ケーブル、AC アダプター、電源コードを取り外さないでください。
- iPod ⇄ iTunes 同期機能を使用しているときは、本機のアラーム機能は動作しません。

4

長押し



前面

5

長押し

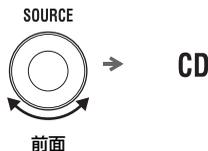


同期

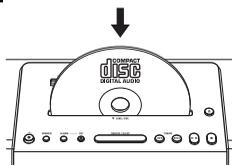
CD、USB 機器の音楽を聴く

▶ CD の再生

1



2



1 SOURCE を CD にする。

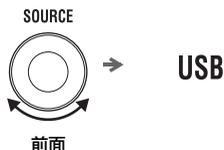
2 CD を入れる。
自動的に再生が始まります。リモコンと本機のどちらからでも操作できます。

ご注意

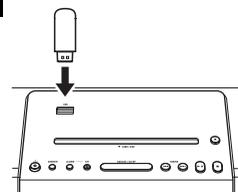
CD のラベル面を手前に入れてください。

▶ USB 機器の再生

1



2



1 SOURCE を USB にする。

2 USB 機器を接続する。
自動的に再生が始まります。リモコンと本機のどちらからでも操作できます。



- USB 機器はいつでも取り外せます。
- 再生順は以下になります。
 - フォルダ: フォルダ名の最初の 3 文字のアルファベット順。名前にアルファベット以外の文字が使われているフォルダは、アルファベットのフォルダの後に再生されます。
 - ファイル: 記録順



- CD/USB 機器を再生中に上面の **■** ボタンを押した場合、次回は再生していた曲の始めから再生されます。停止中に再度 **■** を押した場合は、以下のように再生されます。
 - オーディオ CD を再生しているとき: CD の最初から再生
 - データ CD、USB を再生しているとき: 前回停止した曲があるフォルダの最初の曲から再生
- 再生できるディスク、ファイルについては、「ディスクおよび USB 機器について」(P. 16) を参照してください。
- CD/USB 機器の再生を停止した後、何も操作されない状態が 60 分続くと、本機は自動的にシステムオフします。

▶ 表示情報

再生開始時やスキップ時などに、曲、フォルダ、ファイル番号を 3 ~ 4 秒間表示します。

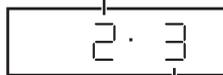
オーディオ CD 再生時



曲番号

データ CD/USB 機器再生時

フォルダ番号



ファイル番号

▶ データ CD/USB 機器のフォルダスキップ操作

PRESET



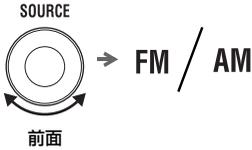
前面

データ CD/USB 機器の再生中に、フォルダを **PRESET** で選択する。

ラジオを聴く

放送局を選ぶ

1



2



- 1 **SOURCE** を FM または AM にする。
チューニング
 - 2 自動チューニング : **TUNING** を長押しする。
チューニング
- 手動チューニング : **TUNING** を繰り返し押す。

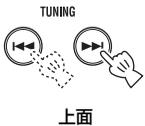
ご注意

FM 受信中に手でチューニングした場合、ラジオの音声はモノラルになります。

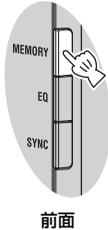
放送局をプリセットに登録する

プリセット機能を使って、FM/AMそれぞれ5局まで登録できます。

1



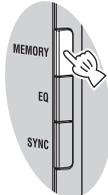
2



3



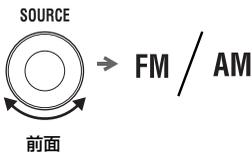
4



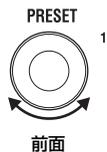
- 1 登録したい放送局を選ぶ。
メモリー
 - 2 **MEMORY** を押す。
 - 3 登録したいプリセット番号を選ぶ。
登録
- 登録を途中でキャンセルするには、**TUNING** を押してください。
チューニング
- 4 **MEMORY** を押して終了する。
メモリー
- 登録が完了します。

登録した放送局を選ぶ (プリセット選局)

1



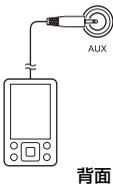
2



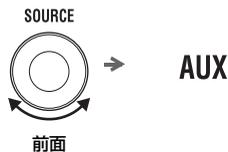
- 1 **SOURCE** を FM または AM にする。
プリセット
- 2 登録した放送局を **PRESET** で選択する。

外部機器の音楽を聴く

1



2



- 1 ポータブルオーディオ機器を市販の3.5mm ミニプラグケーブルで AUX に接続する。

ご注意

接続する前に本機とポータブルオーディオ機器の音量を十分に下げてください。

- 2 **SOURCE** を AUX にする。
ソース
- 3 接続したポータブルオーディオ機器を再生する。

アラーム機能を使う

インテリアラーム

IntelliAlarm の特徴

本機ではお好みの音楽、「ピピピ」というピープ音、またはその両方を、設定した時刻に再生することができます。このアラーム機能 (IntelliAlarm) には、次の特徴があります。

- 音楽と「ピピピ」というピープ音を組み合わせた、3つのアラームタイプが選べます。

<small>ソース</small> SOURCE+ <small>ピープ</small> BEEP	音楽ソースとピープ音を設定した時刻に再生します。アラーム時刻の3分前から音楽ソースを再生し、小さい音量から徐々に設定した音量になります。アラーム時刻にはピープ音を再生します。快適な目覚めを提供する、お勤めの設定です。
<small>ソース</small> SOURCE	選択した音楽ソースを設定した時刻に再生します。小さい音量から徐々に設定した音量になります。
<small>ピープ</small> BEEP	ピープ音を設定した時刻に再生します。

- 音楽ソースとして、iPod、オーディオ CD、データ CD、USB 機器またはラジオが選べます。音楽ソースによって、次のようにアラームを選択できます。

音楽ソース	設定	機能
iPod	プレイリスト	特定のプレイリストを繰り返し再生します。プレイリストを再生したいときは、「ALARM Yamaha DTA」プレイリストを前もって作成してください。プレイリスト名は、単語を半角スペースで区切って、大文字、小文字の違いに注意して作成してください。
	レジューム再生	「ALARM Yamaha DTA」プレイリストが iPod がないときは、最後に再生していた曲の続きから再生します。
オーディオ CD	曲指定	選択した曲を繰り返し再生します。
	レジューム再生	最後に再生していた曲を再生します。
データ CD/USB 機器	フォルダ指定	選択したフォルダを繰り返し再生します。
	レジューム再生	最後に再生していた曲を再生します。
FM/AM	プリセット登録局指定	選択したプリセット登録局がかかります。
	レジューム再生	最後に聴いていた放送局がかかります。

- アラームの設定中に設定したアラームを試聴できます。
- スヌーズ機能を使用できます。

アラームを設定する

▶ アラームの時刻、タイプを設定する

1



2

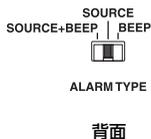


セット
1 SET を押す。

アラームインジケータ (((●))) および設定できる項目が点滅します。

2 プリセット
PRESET でアラーム時刻を設定する。

3



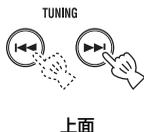
4

(必要に応じて選択)



5

(必要に応じて選択)



6



7



3 アラーム タイプ
ALARM TYPEでアラームタイプを設定する。

SOURCE+BEEP、SOURCE、BEEPから選択します。詳細については、「IntelliAlarm の特徴 (P. 9)」を参照してください。

4 SOURCEでソースを選択する(必要な場合)。

SOURCE+BEEP、SOURCEを選択した場合、音楽ソースを設定してください。AUX 以外のソースが選択できます。

5 再生する曲、フォルダ、放送局を指定する(必要な場合)。

音楽ソースが CD/USB/FM/AM のとき、◀◀/▶▶で再生する曲、フォルダ、放送局を指定します。



- 音楽ソースとして iPod を選択した場合、「[ALARM Yamaha DTA] プレイリスト」をアラーム時刻に再生します。もし上記プレイリストが iPod がない場合、最後に再生した曲の続きから再生します。
- CD/USB を選択した場合、曲番号、フォルダ番号指定時に「0」を選択すると、最後に再生した曲を再生します。
- FM/AM を選択した場合、放送局指定時にプリセット登録局を選択しないと(プリセットインジケータ消灯)、最後に聴いていた放送局がかかります。

ご注意

設定したソースが接続または挿入されていない場合、ステップ5の設定はできません。

6 VOLUMEでアラーム音量を設定する。



iPod やラジオを選択しているときに▶▶を押すと、設定した内容でアラームを試聴できます。CD/USB を選択しているときは、◀◀▶▶が点滅しているときに▶▶を押すと、設定した内容でアラームを試聴できます。■を押すと停止します。

7 SETを押して終了する。

アラームが設定され、アラームインジケータ ((●)) が点灯します。

▶ アラーム機能をオン / オフにする

ALARM



上面

アラーム機能をオン / オフにする。



アラーム機能をオンにしたとき、アラームインジケータ（**[[●]]**）が点灯し、アラーム時刻が一定時間表示されます。

アラーム音再生中の操作

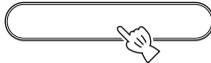
設定した時刻になると、選択したアラーム音が再生されます。再生中は下記の操作が可能です。

ご注意

アラーム時刻に選択された音楽ソースが再生できない場合（iPod が接続されていない場合など）、代わりにピープ音が再生されます。

▶ スヌーズ機能を使用する

SNOOZE / SLEEP



上面

スヌーズ スリープ
SNOOZE/SLEEP を押す。

一時的にアラーム音を停止し、5 分後に再びアラーム音を再生します。



- アラームタイプが ソース SOURCE+ピープ BEEP のときは、スヌーズ SNOOZE/スリープ SLEEP を一回押すとピープ音を停止し、二回押すと音楽ソースを停止します。音楽ソースが停止されてから 5 分後に再び音楽ソースを徐々に音量を上げながら再生し、ピープ音を鳴らします。
- スヌーズ中はアラームインジケータが点滅します。

▶ アラーム音を停止する

ALARM



上面



上面

アラーム
ALARM もしくは  を押す。

- アラーム音を停止しない場合、60 分後に自動的に停止します。
- アラームを停止すると、アラーム機能はオフになりますが、アラーム時刻など設定した内容は保持されます。再度アラームをオンにする場合は、アラーム ALARM を押してください。

シャッフル・リピート再生をする

シャッフル再生

繰り返し押す



リモコン

シャッフルインジケーターが次のように点灯します。

CD/USB	iPod
(フォルダ内の全曲シャッフル)	→ (曲)
→ ALL (全曲シャッフル)	→ (アルバム)
→ 非表示 (シャッフルオフ)	→ 非表示 (シャッフルオフ)

リピート再生

繰り返し押す



リモコン

リピートインジケーターが次のように点灯します。

CD/USB	iPod
(フォルダ内の全曲リピート)	→ 1 (1曲)
→ ALL (全曲リピート)	→ ALL (すべて)
→ 1 (1曲リピート)	→ 非表示 (リピートオフ)
→ 非表示 (リピートオフ)	



- 選択された音楽ソースがフォルダを含んでいる場合、フォルダシャッフル/リピートも選択できます。
- iPod を再生している場合、ご使用の iPod によっては、シャッフル、リピートが正しく表示・動作しない場合があります。
- iPod を再生している場合、シャッフル・リピート再生の順番は iPod の機種によります。

スリープ機能を使う

自動的に本機をシステムオフにします。

繰り返し押す

SNOOZE / SLEEP



上面

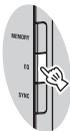
システムオフになるまでの時間を選ぶ。
30、60、90、120 分が選択できます。
時間を選択するとスリープが設定され、スリープインジケーター (ZZ) が前面ディスプレイに表示されます。



スリープをキャンセルするには、
スヌーズ スリープ
SNOOZE/SLEEP を押します。

音質を調整する

1



前面

2



前面

3



1 再生中に EQ を押す。

ロー ミッド ハイ
LOW、MID、HIGH が点滅します。

2 LOW、MID、HIGH で低音、中音、高音の音質を調整する。

3 EQ を押して終了する。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、まず下記をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に作動しない場合は、本機のシステムをオフにし、電源コードをコンセントから抜いてから、お買上げ店または修理ご相談センターまでお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策
スピーカーから音が出ない。	音量が最小または消音に設定されている。	音量を調節してください。
	音楽ソースが正しく選択されていない。	正しい音楽ソースを選択してください。
	ヘッドフォンが接続されている。	ヘッドフォンを取り外してください。
音が突然出なくなる。	スリープ (※ P. 12) を設定している。	本機のシステムをオンにして再生しなおしてください。
音割れ、音の歪み、異音がする。	入力した音楽ソースの音量が大きい。または本機の音量 (とくに低音) が大きい。	^{ボリューム} VOLUME で音量を下げるか、EQ (※ P. 12) で低音を調整してください。
本機が正常に動作しない。 システムをオンにしてもすぐにオフになる。	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機のシステムをオフにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに差し、システムをオンにしてください。
周囲に設置しているデジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	本機とデジタル機器または高周波機器の位置が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。
時刻の設定内容が消えた。	本機への電力供給が 1 週間以上遮断されていた。	電力供給が 1 週間以上遮断されると、本機のメモリーに登録された時刻設定が消えてしまうことがあります。この場合は時刻を再度設定してください (※ P. 5)。
アラームのソースに iPod を設定しても、アラーム時刻に iPod が再生されない。	iPod が本機の iPod ^{ドック} Dock に接続されていない。	iPod を本機の iPod ^{ドック} Dock に接続してください (※ P. 2)。
	^{アラーム タイプ} ALARM TYPE スイッチが ^{ビープ} BEEP に設定されている。	^{アラーム タイプ} ALARM TYPE スイッチを ^{ソース} SOURCE、もしくは ^{ソース ビープ} SOURCE+BEEP に設定してください (※ P. 9)。
時計が点滅していて、操作ができない。	^{クロック} CLOCK スイッチが ^{セット} SET になっており、時計設定中の状態。	^{クロック} CLOCK スイッチを ^{ロック} LOCK にしてください。

iPod

症状	原因	対策
音が出ない。	iPod が iPod Dock にしっかり接続されていない。	もう一度しっかり接続しなおしてください。
	イヤホンが接続されている。	イヤホンを取り外してください。
	iPod のソフトウェアが最新バージョンになっていない。	アップル社のウェブサイトから最新の iTunes ソフトウェアをダウンロードし、iPod のソフトウェアを最新バージョンにアップグレードしてください。
iPod が充電されない。	iPod が iPod Dock に正しく接続されていない。	一旦 iPod を本機から取り外し、再度 iPod Dock に正しく接続してください (※ P. 2)。
	システムが省電力モード (※ P. 2) になっている。	⏻ を押して、省電力モードを解除してください。
iPod を接続後、iPod インジケーターが 2 回点滅を 3 回繰り返す	本機が対応していない iPod が接続されている。	本機が対応している iPod をご使用ください (※ P. 17)。
本機を使って iTunes との同期ができない。	使用している PC や USB ケーブルによっては通信に影響が出る場合がある。	お使いの USB2.0 ケーブルを、より短いものに交換して下さい。

ディスクの再生

症状	原因	対策
ディスクが挿入できない。	システムが省電力モード (※ P. 2) になっている。	⏻ を押して、省電力モードを解除してください。
特定の機能が動作しない。	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください (※ P. 16)。
本体もしくはリモコンの ▶▶ ボタンを押しても再生が始まらない (すぐに停止する)。	ディスクが汚れている。	ディスクの汚れを拭きとってください。
	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください (※ P. 16)。
	本機を気温の低い場所から高い場所に移動したため、レンズ部に露が付いた。	本機を、1 ~ 2 時間ほど放置し、部屋の温度になじませてから、再度操作してください。
ディスクを挿入後、CD インジケーターが 2 回点滅を 3 回繰り返す、ディスクが排出される。	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスク情報および使用しているディスクの種類を確認してください (※ P. 16)。
	ディスクが汚れている、または異物が付着している。	ディスクを取り出し、汚れを拭きとってください。または付着した異物を取り除いてください。
	再生可能なファイルがディスクに入っていない。	再生可能なファイルが入っているディスクを挿入してください (※ P. 16)。
	ディスクが裏返しに挿入されている。	ラベル面を手前にして挿入してください。
ディスクを挿入後、「Err」と前面ディスプレイに表示される。	内部でエラーが発生した。	▲ で CD を取り出してください。

USB 機器の再生

症状	原因	対策
USB 機器内の MP3/WMA ファイルが再生できない。	USB 機器が認識されていない。	本機のシステムをオフ にして USB 機器を取り外してください。その後、システムをオン にして USB 機器を接続しなおしてください。
		USB 機器に AC アダプタが付属している場合、AC アダプタを接続してください。
		上記の対策をしても症状が改善されない場合、お使いの USB 機器は本機に対応していません。
USB 機器を接続後、USB インジケータが 2 回点滅を 3 回繰り返す。	本機に対応していない USB 機器を接続した。	本機を一旦システムオフ にしてから USB 機器を接続しなおしてください。もし、再度同じ症状が現れた場合は、接続された USB 機器は使用できません。
	再生可能なファイルが USB 機器に入っていない。	再生可能なファイルが入っている USB 機器を接続してください (※ P. 16)。
USB 機器を接続後、「Err」と前面ディスプレイに表示される。	本機に対応していない USB 機器を接続した。	本機を一旦システムオフ にしてから USB 機器を接続しなおしてください。もし、再度同じ症状が現れた場合は、接続された USB 機器は使用できません。
	過電流を検出した。	

FM/AM 放送局の受信

症状	原因	対策
ステレオ放送になると雑音が多くなる。	アンテナが正しく接続されていない。	アンテナが正しく接続されていることを確認してください (※ P. 4)。
	選択している放送局の電波が弱い、またはお住まいの地域の放送局の受信感度が良くない。	手動チューニングで雑音を軽減するか (※ P. 8)、市販の屋外アンテナを使用してください。
屋外アンテナを使用しても受信感度が悪い (音が歪むなど)。	マルチパス (多重反射) などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。

リモコンの操作

症状	原因	対策
リモコンで本機を操作できない。	リモコンの操作範囲外から操作しようとしている。	リモコンの操作範囲については、「リモコンを使用する」(※ P. 1)を参照してください。
	本機のリモコン受光部 (※ P. 3) に直射日光や照明があたっている。	照明または本機の向きを変更してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。
	リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。

ディスクおよび USB 機器について

ディスクに関するご注意

本機は下記のロゴのついた音楽 CD、CD-R/RW* を再生できます。



* ISO 9660 フォーマットの CD-R/RW



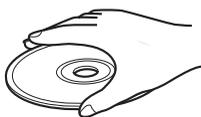
ディスクのロゴマークは、ディスクやディスクのジャケットに印刷されています。

ご注意

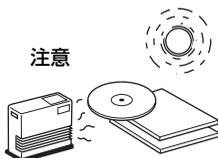
- 本機の故障やディスクの破損の原因となりますので、上記以外のディスクは使用しないでください。
- ファイナライズされていない CD-R や CD-RW ディスクは再生できません。ファイナライズとは、各ディスクの再生対応機器で再生できるように処理することです。
- 信頼できるメーカーのディスクを使用してください。録音状態やディスクの特性によっては、再生できない場合があります。
- ハート型などの特殊形状のディスクは使用しないでください。
- 表面に傷のあるディスクは使用しないでください。

ディスクの取扱いについて

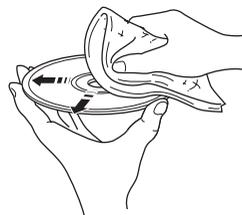
- ディスクを持つときは、ディスクの縁や中央の穴を持つようにし、表面に触れないでください。
- ディスクに鉛筆などで字を書かないでください。
- ディスクにテープやシールなどを貼ったり、のりなどを付けしないでください。
- 傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。
- ディスク以外のものを CD 挿入口に入れないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。
- ディスクを保管する際には、直射日光のあたるところや温度の高いところ、湿気やほこりの多いところは避けてください。



注意



- ディスクが汚れたときには、乾いた柔らかい布で中心から外側へふいてください。レコードクリーナーやシンナーなどは使わないでください。
- 誤動作の原因になるため、市販のレンズクリーナーなどは使わないでください。
- ディスクは 1 枚だけ挿入してください。2 枚以上重ねて挿入すると故障の原因となり、ディスクを傷つけることにもなります。



USB 機器に関するご注意

本機で再生できる機器は、USB マスストレージクラスに対応し、データが FAT16 または FAT32 ファイルシステムで記録されているフラッシュメモリ、ポータブルオーディオプレーヤーです。

ご注意

- お使いの USB 機器によっては正常に作動しないことがあります。
- USB マスストレージクラス以外の機器 (USB チャージャーや USB ハブ)、PC、カードリーダー、外付け HDD などは本機に接続できません。
- USB 機器を本機と接続して使用しているときに、USB 機器のデータを消失あるいは損傷した場合、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。
- すべての USB 機器に対して、動作および電源の供給を保障するものではありません。

MP3 および WMA ファイルについて

ご注意

- 本機は以下のファイルに対応しています。

ファイル	ビットレート (kbps)	サンプリング周波数 (kHz)
MP3	8-320**	16-48
WMA	16-320**	22.05-48

- ** 固定および可変ビットレートに対応しています。
- 本機が表示できるファイルおよびフォルダは以下の通りです。

	データ CD	USB
最大ファイル数	512	9999
最大フォルダ数	255	128
1 フォルダ内の最大ファイル数	511	255

- 著作権保護がされているファイルは再生できません。

主な仕様

▶ プレーヤー部

iPod (デジタル接続)

- 対応 iPod/iPhone
.....iPod touch(第1、第2、第3、第4世代)
iPod classic
iPod nano (第2、第3、第4、第5、第6世代)
iPhone 4
iPhone 3GS
iPhone 3G
iPhone

CD

- メディア.....CD、CD-R/RW
- オーディオフォーマット
.....オーディオ CD、MP3、WMA

レーザー

- タイプ.....半導体レーザー GaAs/GaAlAs
- 波長.....790 nm
- 出力.....7 mW

USB

- オーディオフォーマット.....MP3、WMA

AUX

- 入力端子
.....3.5 mm ステレオミニジャック

▶ アンプ部

- 最大出力.....15 W + 15 W
(6Ω 1 kHz、10% THD)
- ヘッドフォン端子
.....3.5 mm ステレオミニジャック
(適合インピーダンス 16 ~ 32 Ω)

iPod, iPhone

「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod または iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって証明された電子アクセサリであることを示します。アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。

iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch、iTunes は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI - B

▶ チューナー部

受信周波数範囲

- FM76.0 ~ 90.0 MHz
- AM.....531 ~ 1611 kHz

▶ 総合

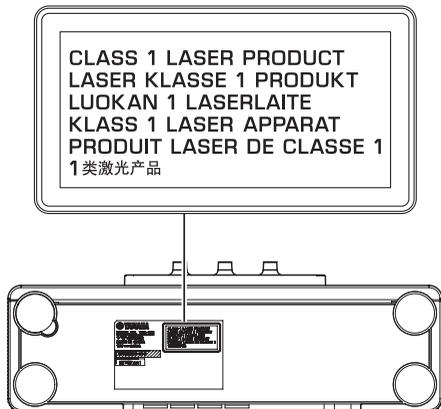
- 電源電圧 / 周波数.....AC 100 V、50/60 Hz
- 消費電力.....20 W
- システムオフ時消費電力.....1.5 W
- 省電力モード時消費電力.....0.5 W 以下
- USB FOR SYNC 端子.....USB mini-B
- 外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)
.....399 × 181 × 137 mm
- 質量.....3.2 kg

仕様、および外観は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

音楽を楽しむエチケット

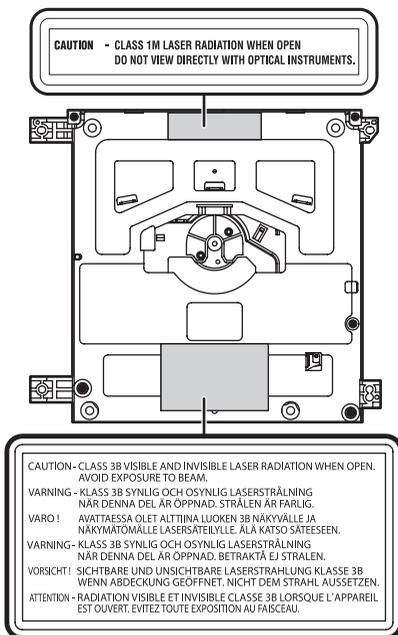
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

製品ラベルは本体の底面に掲示してあります。



ご注意

この取扱説明書に記載されている以外の調節や操作は、有害な放射を引き起こす可能性があります。



お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口



0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町1-01

受付：月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

■ヤマハオーディオ&ビジュアルサポートページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

<http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター



0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAX (053) 463-1127

受付：月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00
(日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 9:00～17:45
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラクタターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

- **保証期間**
お買い上げ日から1年間です。
- **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**
技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

- **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号なども合わせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。
- **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

- **消耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する消耗部品(下記参照)が使用されています。消耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を長く安定してご使用いただくためには、定期的に消耗部品を交換されることをおすすめします。消耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の一例

ホリユームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を!



愛情点検

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コグくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



© 2010 Yamaha Corporation

ヤマハ株式会社
Printed in China Y WY55150